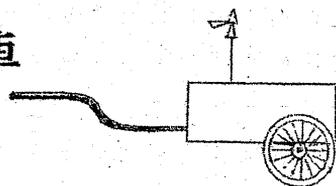


# 指南車



## フィンランドとスイス

渡辺 光

昨夏、スウェーデンなど北歐五か国共催の下に、国際地理学会議が開かれ、私も29年ぶりでヨーロッパの土を踏んだ。

前の旅行先が、イタリア、フランス、イギリス、ドイツなどの大国に限られていたのに対して、このたびはむしろ小国に多くの日時を費した。それらの中から表題の二国を選び、印象の一端を書きつづけてみよう。

### フィンランド

日本人が国際会議に出席した場合に、ほとんど異口同音に叫ぶことは、その語学力の不足についてのなげきである。事実、われわれは7、8年も外国語を習いながら、大部分は読むことがやっとというようなありさまである。この状態は戦後外人と接する機会が多くなったにもかかわらず、あまり改善されているとは思われない。その原因は、教育法の不備にあるか、民族的資質によるかいずれかであろうが、フィンランドに来て少しく思いあたるところがあつたような気がする。

この国を旅行して感じたことは、この国の人々の会話能力が二つの劇然と異なつたグループに分かれているということである。一つのグループは、英、独のいずれかまたはその一つがきわめて達者なグループであり、いま一つは日本人よりは少しく達者な程度のグループである。私の交渉の範囲がきわめて限られていたので、断定的なことはいえないが、前者に属するものはスウェーデン系で、後者に属するものはフィン系のものである。

フィンランドはその歴史的背景から、この両者が併存し、両国語が共に公用語になっている。また、スウェーデン語が西欧系であるのに対して、フィン語がハンガリー語と共に語系を異にするものであることもいうまでもない。フィン語はその地理的位置からも、西欧の言語から多く影響されたであろうし、単語などは外来語の形で共通的のものが多いから、日本人が西欧語を学ぶよりは、ずっと条件がよいはずである。それにもかかわらず、語系の相異からくる西欧語の学習の困難性は、日本人ほどでないにしてもきわめて大きいものがあるようである。われわれの語学力の不十分なことが、決して教授法などの不備によるものでないことを確認したことは、いささかあきらめ

に似たことにはなるが、なぐさめられた天才である。どうも語学力は学問的の頭脳の働きとは、別の能力であると共に、系統を異にする二つのことばをマスターすることは、五十嵐先生のような天才は別として、常人には不可能に近いように思われる。ちなみに西歐人相互の間では、2年間の学習で西歐系の外国語のふつうの読書、会話の能力は獲得できるとのことである。

## スイス

戦後、スイスは米国に次いで日本人の口にたびたびのぼる国であり、多くの印象記その他を通して紹介されている国である。しかし一般にはかなりこの国について幻想的の像をえがいていたり、現実構成の重要な要素を逸している人が多いようであるから、これらの点について少し述べてみよう。

スイスが平和国家の代表的、模範的の国であり、国民が平和保持に異常なる熱意をもつと共に、産業は栄え、文化は進み、国民の生活程度もヨーロッパの中にあつても最高に教えられることは、よく紹介されているところであり、決してまちがいではない。そして一般には、その繁栄の因ってきたるゆえんのもの、二度にわたる大戦の戦禍をまめかれたことや、そこに発達する精密工業と観光業などの経済活動に帰している、しかしこれだけではスイスの繁栄に与える経済的原因のきわめて重要な因子をぬかしている。その中の一つは金融業であり、他の一つは旺盛な海外投資である。スイスの永世中立国としての平和の保持に対しては世界の各国から深い信頼が寄せられており、そのために海外からスイスの保険会社には、多額の保険がかけられていると共に、銀行に対しても預金をする者がきわめて多い。米英のような安定した通貨を持った国でも、その富裕階級の者もスイスの保険会社と契約し、銀行に預金をしている。このようにして集積された預金は、スイスの企業として、その持つ経営、技術能力と共に、外国にプラントなどの形で投資され運営される。そしてそれらを通しての利益がスイスの国際収入の大きな部分を構成しているのである。

かくて、スイスの繁栄の究極の原因は、世界がこの国に寄せているところの国際信用、すなわち「平和」である。平和こそはスイスの持つもつとも偉大にして貴重なる資産であるということができるのである。スイスの国民がその保持に対して異常な熱心をもつのは当然である。

しかし、スイスの国民は、平和が、一片の一方的宣言や、他国依存の条約などによって守り通せるものでないことを強く銘記している。それはヨーロッパの十字路ともいうべき地理的位置に位して、治乱興亡を目のあたりに感得しているからである。このことは国民皆兵制や4百万人の人口をもつてし

て50万の民兵を持ち、その絶えざる訓練によって防衛力保持に力を尽していることによつてもうかがうことができるのであつて、軍需事業についても見るべきものがあることはわが国にも知られておりである。

また水力電気の開発にあつても、たえず国防を念頭に置いていることはわが国では考えられないほどである。私か3年前、スイスと、これまた平和国家の代表国とみなされているスウェーデンの地理学者と共に、佐久間ダムとその発電所を見学した際、彼らからなぜにこのような重要な施設を建設するにあつて国防上の見地から、発電所を地下に持つていかないのかという質問を受けた。現にこのたび両国に行つてみると、発電所は煙囪の中にかくされるか、付近に適當な山地があれば、その中に建設されていることを観察することができた。

このような平和の保持に対する烈々たる熱意の結集によつてこそ、列強にかこまれた十字路的位置にありながら、よく平和国家としての榮譽を守り通すことができたのである。そして守り得た平和は単に国土と國民を直接の戦禍から守りぬいただけではない。それは貴重なる國家的資金として廣泛的に周囲の繁栄の基盤ともなつたのである。

## 採 点



松 井 勇

「ダイシキウサイテンダノム ーブ ン」、いうまでもなく、成績提出の催促である。ある大学の才一文学部から電報でせき立てられて、どうやら採点の義務を果した。毎年のことながら、多人数のクラスは、ついのびのびになりがちで、それだけ報告をすませたあとは、一寸重荷をおろした気分になる。さて、というわけでもないが、かねがねこれも、うるさくとか催促されていたこの雑文を書きはじめた次第である。

昭和9年以來、すでに30年近く、答案を評価して序列をつける仕事をしてきたか、一向にその道のベテランにはなれそうもない。今日もある大学の友人から、一枚一分という話をきいて、内心舌をまいたことであつた。何よりもまず理解の程度がよくつかめて、その上で見やすい問題などは、実際には中々つくれないものである。おのづから多人数の場合には、らくにみられて、差のつけやすいようなものを出題することになる。理解の程度の方は、とかくなおざりになりがちである。それでも思ひのほか時間がかかつて、きめられた日までにみるのは胃がおれる。